

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4079600534		
法人名	特定非営利活動法人あたか		
事業所名	グループホームあたか		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3083-2		
自己評価作成日	平成28年6月22日	評価結果確定日	平成28年8月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.jp/40/index.php">http://www.kaiakensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年7月23日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームあたかは、自然豊かな山里にあります。耳を澄ませば、鳥のさえずりが聴こえます。窓からは、緑いっぱいの山々が見られます。敷地内の畑で採れた野菜達が、毎日の食卓を彩ります。利用者のみなさまは、恵まれた環境の中で自然と触れ合い、ゆったりとくつろげる時間を大切にして、心身のリラクセスを図っております。また、家庭的な雰囲気をも大切にしながら、少しでも役割を持つことで生きがいや日常生活の活性化に繋げ、笑顔で安心して生活して頂ける支援を行っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

朝の申し送りに時間をかけ、理念を唱和したり、入居者の心身の状況や変化を話し合いながら、日々の生活を支援している。入居11年目の入居者は「食べたくない」との発言や頭を抱え込む仕草が多くなるなど、変化する状態や意向の把握に全職員で努めている。また、若年の入居者もあり、医療機関との連携や関係機関と情報交換をしながら、生きがいのある生活支援を模索している。介護度の重い入居者も多く、2人体制のトイレ介助、腹部マッサージや膀胱への刺激で排便や排尿を促すなど、円滑な排泄が食欲などの生活全般に及ぼす影響を熟知したケアが実践されている。そして、施設長の畑でとれる季節の新鮮な野菜を使った食事は入居者、家族、職員に好評で、喜々として野菜の下ごしらえをする入居者も多く、恒例の風景となっている。地域行事や運営推進会議で、家族や地域の理解や協力を得ながら、地域包括ケアを目指した運営が期待できるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホームあたか**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時に、『法人理念・社是・笑顔の心の10箇条・利用者と関わるうえでの留意点』を唱和している。職員ひとり一人が理念を理解し、意識しながら、慈悲の心で利用者の尊厳を守る介護サービスに取り組んでいる。	廊下や事務室に理念を掲示し、朝の申し送り時に唱和している。「こんな身体になって情けない」、「家に帰る」と話す入居者の心情を理解しながら、理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ます釣り大会や神幸祭など地域の行事には、できるだけ参加するようにしている。また、食材の買出しでは、地元の道の駅を利用し、地域住民との交流が保てるようにしている。	ます釣り大会や神幸祭の神輿を見に行くことができる入居者は限られるが、交流の機会と捉え参加している。道の駅での買い物は、入居者や職員が家族と出合って声かけをする場にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議で認知症の方々との関わりや理解の説明を行っている。認知症状によって生じる事故等に対する説明を行い理解を深めて頂くと共に、疑問点にお答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員・地域包括支援センター職員・利用者家族・利用者参加の運営推進会議を2ヶ月の1回開催している。行事報告や利用者の近況報告を行っている。また、情報交換を行いサービスの向上に活かしている。	定期的に開催され、入居者の状況や避難訓練などの行事を報告している。長年民生委員を務める運営推進委員からは、ホームが開放的との評価を受けている。毎月のホーム便りと一緒に会議内容を家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、地域包括支援センター職員が参加し、事業所の実情や活動内容を報告し、協力・相談しやすい関係を築いている。	3か月毎に地域包括支援センター主催のグループホームの介護支援専門員研修に担当者が参加し、関係機関との連携に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外出傾向の強い利用者があり、家族の希望で玄関に施錠をしている。利用者の安全面・健康面を考慮した身体拘束に関しては、必ず家族の同意を得ている。介護者都合の身体拘束は、今までもこれからもありません。	外出傾向のある入居者の写真は派出所に届けている。入居者の心身の状況や家族の要望や意向を確認しながら、玄関の施錠やベッド柵や錠の活用に取り組んでいる。洗濯物を干している時に、開けたドアの隙間から出て行く入居者もあり、声をかけたり、ドアの開閉に留意するなどの対応をしている。	外出傾向の回数が減少していることから、職員の日配り・気配り等のスキルアップを目指すために、メリハリのある施錠を検討されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビや新聞等で虐待の報道があった時には、朝礼やミーティングで話し合う機会を設けている。決して人事とは考えず、職員間で注意を払いあい、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年から、1名の利用者が制度を活用されているため、手続きや経緯から制度について理解を深めることができている。	成年後見制度を活用している入居者があるが、後見人の定期的な訪問がなく、当該入居者宛ての関係書面をホームで預かっている。キーパーソンに現状を説明し、ホームの立場や役割を明確にした連携をする予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明が一方的にならないように、利用者や家族が十分に理解・納得をしているか、不安や疑問点はないか尋ねている。また、契約後の不安や疑問点についても、同様に尋ねている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、日常会話の中から意見や要望を引き出すようにしている。家族については、面会時に利用者の日頃の様子を伝え、会話の中から、意見や要望がないか伺っている。	家族の訪問時に日頃の暮らしぶりを報告したり、毎月入居者の笑顔を満載したホーム便りを送付し、意見の表出に努めている。廊下にも日頃の暮らしぶりを撮った写真が掲示され、家族等に好評である。運営推進会議に参加した家族からは謝辞はあるが、具体的な要望はない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼は、じっくりと時間をかけて行い、単なる申し送りにならないようにしている。また、代表者や管理者への垣根も低く、気軽に意見や提案ができる雰囲気作りをしている。	時間をかけた朝の申し送りが、率直な意見交換の場となっている。尿取りパットの取り扱いや口の中に入れた薬を飲み込んだかを確認した方が良いなど、具体的な提案がある。医療機関受診同行の業務が苦手との意見もあるが、申し送りノートなどの活用で、情報共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎回朝礼に参加し、職員の勤務状況を十分に把握している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	労働基準法に沿って労働条件を整え、採用にあたっては人間性を重視し、老若男女、学歴・資格の有無を問わずに採用している。また、定年も70歳としている。	50～60歳代の職員が多く、職歴や経験を發揮しながら就労している。夜勤は施設長等が中心となって業務内容や手順を指導している。資格取得を支援し、介護福祉士の資格を取得したり、介護支援専門員試験に受験した職員もある。休憩室が整備され、希望するシフトを組んだり、残業手当を支給している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人生の大先輩である入居者の方々には、常に尊敬の念で接するようにしている。また、朝礼やミーティングの際には、入居者の方への言葉使いや接し方には十分に注意を払うように話している。	人権尊重の理念を実践するために、社是や笑顔の10か条を掲示している。介護支援専門員が外部で参加した高齢者虐待防止に関する資料をもとに、内部研修を実施している。入居者の職歴や生活歴に配慮した声かけや対応を実践している。	行政主催等の人権研修に参加し、日々ケアに取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は毎日職員と接しており、管理者や職員一人ひとりの力量を把握している。外部研修に関しては、勤務調整や費用の負担など全面的にバックアップしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や勉強会に積極的に参加し、同業者間での情報交換やネットワーク作りに役立つようにしている。また、掛け持ちのケアマネを通じて、他のグループホームの良い点を真似る等し、サービスの質を向上させていくようにしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の中で、本人と家族からこれまでの生活状況を十分に伺っている。また、入居に際して不安や要望があれば、全職員で話し合い、安心して入居できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談では家族等の話を十分に伺い、その会話の中から入居に際しての不安や要望等がないか感じ取り、引き出せるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人ひとりに合ったサービスを提供できるように常に柔軟な対応に心掛けている。また、必要な際には他のサービス機関に相談し利用できるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事・洗濯等、出来ることは無理のない程度にお願いし、入居者と職員が互いに支え合う共同生活者としての関係になるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、会話の中から日頃の様子や状態を具体的なエピソードを添えて伝えるようにしている。それにより、入居者の現状を把握してもらい、共に支えて合う関係を築いている。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際には、本人に馴染みのある場所を経由したりしながら、思い出話を楽しんでいる。また、食材の買出しに地元の道の駅を利用し、顔見知りと偶然会い、話が弾むこともある。	友人や家族が定期的に来訪したり、選挙や法事に家族と一緒に出かけ入居者もある。入居当初はケーキ持参で来訪していた伴侶が、本人の反応に足が遠のくようになり、関係継続に配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、利用者同士のふれ合いが楽しい時間となるように支援し、自室にこもりがちにならないようにしている。また、職員が利用者の間に入ることで会話の苦手な利用者がコミュニケーションを図りやすくしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院から退去に至った方への見舞いを続けたり、偶然街中で会った際などには、その後の様子を伺うなど、これまでの関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、希望や意向を感じ取り、無理なく心地よい暮らしができるように日々努めている。	基本情報シートを整備している。日々の気づきは朝の申し送り等を通じて、情報を共有しながら、さらなる思いや意向を把握している。入居11年目の入居者は「食べたくない」との発言や頭を抱え込む仕草が多くなり、変化する状態や意向の把握に全職員で努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や日常会話の中から、これまでの暮らしぶりや馴染みのもの、生活環境等を伺い、本人にとって一番過ごしやすい環境になるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態や過ごし方、本人の発した言葉はそのまま日誌に記録し、全職員がいつでも把握できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望、職員の気づき等を参考にモニタリングし、一人ひとりの現状に即した介護計画を作成している。	朝の申し送り等で状態の変化を話し合い、モニタリングや再アセスメントしながら、介護計画の作成や見直しをしている。若年の入居者もあり、医療機関との連携による服薬管理だけでなく、関係機関とも情報交換をしながら、生きがいのある生活を支援を模索している。	変化する心身の状況に応じて、ケア内容の変更や追加を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫は、個別に記録し、その情報を職員間で共有している。また、その記録を参考に介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズには、可能な限り応えるよう、型にはまらないよう柔軟な対応を心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安心して安全な暮らしができるように、警察・消防・民生委員・地域包括センターとの協力体制を整えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族と話し合い、希望があれば馴染みのかかりつけ医への受診も職員が行っている。利用者が安心して適切な医療を受けられるように支援している。	町内の医療機関だけでなく、専門医療機関や他市の医療機関受診も支援している。専門医療機関との連携が必要な入居者もあり、内服管理に留意している。医療機関からの情報を申し送りノート等で全職員が共有している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は介護職員を兼務し、週1回の夜勤もこなしており、一人ひとりの状態を十分に把握している。週に3日のバイタル測定や個々の聞き取りも行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に見舞いに行き、家族や看護師から状態を尋ねる等して、情報交換に努めている。また、こちらから医師の面談を希望し、受け入れ態勢を十分に考慮する等し、早期の退院を促している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとに説明を行い、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認を行い、話し合いを重ねながら方針の共有に努めている。	介護度の重い入居者も多く、終末期のどの状態で医療機関へ搬送するかについては、かかりつけ医や家族と十分に話し合う予定である。誤嚥性肺炎で医療機関に入院した入居者が1名あるが、最近の退居はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な訓練や知識はある。実際に起きた急変や事故発生時には、早急にミーティングを行い、その対応が適切であったか、初期対応の遅れはなかったかを話し合っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消火避難訓練を行っている。緊急連絡網をホームに近い順番で作成し、職員がいち早い対応ができるようにしている。また、代表者の自宅が隣接しており、災害時にはすぐに駆けつけることができる。	昨年度は、11月、12月に通報、消防、避難の総合訓練を実施している。周囲が畑や田んぼの中にある平屋のホームであるが、今年度は夜間想定訓練も予定している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の立場に立って考え、穏やかでゆったりとした対応を心がけることで、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。	大声が入居者に及ぼす影響を考慮し、個々の入居者の生活歴や職歴に配慮し、共感的な声かけをしている。現役で仕事をしているつもり入居者の「手元にお金がない」、「家に帰る」などの言動の背後にある淋しさを受け止めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的な語り掛けではなく、会話のキャッチボールを楽しめるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分を考慮し、希望に沿った無理のない支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に数回の美容の日を設け、毛染やカットを行っている。希望があれば、美容院にもお連れしている。着替えの際には、季節に応じた好みの服を選択できるように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園や裏山で採れた季節の野菜や山菜の下ごしらえは、入居者の慣例行事になっており、とても楽しく作業される。味見や配膳準備・後片付け等、一人ひとりの残存能力に応じたお手伝いを無理のない程度にお願いしている。	施設長の畑でとれる季節の新鮮な野菜を使った食事は入居者、家族、職員に好評である。喜々として野菜のしごしらえをする入居者も多い。食前の口腔体操後、全入居者が1つのテーブルを囲んでいる。食事の進み具合に応じて、声かけや見守り、食事介助が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や嚥下機能を考慮したうえで、栄養バランスのとれた献立にしている。食事水分摂取量に関しては、健康管理表に記録している。また、水分摂取量は24時間シートを作成し、1時間刻みで摂取量を記入している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きの声かけ等一人ひとりに応じた口腔ケアをしている。毎就寝前には、義歯の洗浄も行っている。また、必要に応じて訪問歯科を利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライドや羞恥心に配慮したさりげないトイレ誘導を支援している。また、座位での排泄を支援するために2人体制で介助する場合もある。	2人体制でトイレでの排泄を援助する入居者もあり、腹部マッサージや膀胱への刺激で排便や排尿を促している。排泄後、温かいタオルでの清拭も行われ、円滑な排泄が食欲などの生活全般に及ぼす影響を熟知したケアが実践されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や十分な水分量の確保、レクリエーションや散歩で適度な運動の働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や心身の状態に配慮し、清拭やシャワー浴に変更したりする等、個々に応じた入浴支援をしている。また、入浴拒否の入居者には、時間をかけてコミュニケーションを図り、決して無理強いせず、楽しい入浴ができるようにしている。	週3回の入浴を支援している。浴室と脱衣場に其々職員を配置し、状況に応じて2人体制で入浴を支援する入居者もある。入浴を億劫がる入居者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、一人ひとりの体調や心身の状態に配慮した適度な運動を促す等し、夜間の安眠に繋がるような支援をしている。また、体力の落ちてきた入居者には、昼寝の時間を設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状況については、個別の服薬管理票で管理し、いつでも確認できるようにしている。薬に変更があった際には、申し送りノートや介護日誌へ記載し、全職員が把握できるようにしている。また、変更後の副作用にも注意している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの残存能力や得意とする家事や作業をお願いしている。また、気候の良い時は散歩や買い物の付き添い等、外に出て気分転換になるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や草取り、自宅の様子を見に行く等、その日の希望にそって、可能な限りの要望に応えるようにしている。日常的には、季節や天候に応じて、ホーム周辺を散歩することが多い。	定期的ではないが自宅で食事をしたり、家族と投票に出かけた入居者もあり、家族と協力しながら、外出を支援している。自宅に帰りたいという入居者と気分転換に自宅までドライブしたり、外出傾向のある入居者を伴って買い物に出かけたりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、2名が現金を所持している。普段は、事務所で預かっているが、希望があれば確認してもらったり、買い物の際に支払いができるように支援している。使用目的より、所持しているという事実に満足しておられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも自由に自室で電話ができるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気を感じている。玄関周辺には、生け花や季節に応じた制作物を飾り、居心地の良い空間になるようにしている。	玄関の両脇は車イスが使いやすいようにスロープが設置され、玄関の板の間は家族や来訪者が入居者と過ごせるようにソファや机が置かれている。広い廊下の端に置かれた長椅子で昼寝をしたり、日中も共用空間で過ごす入居者も多く、ホーム全体が和やかな雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下の計3ヶ所にソファやベンチを配置する等、自室以外にもくつろげる場所を提供し、自室に籠りがちにならないような工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、個々の生活様式にあった部屋を提供している。また、使い慣れた家具や好みの雑貨を持ち込むことで居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々の居室入口には大きく入居者名が掲げられている。ベット柵に付けられ鈴の音で入居者の起居動作が分かるように入口の戸の開閉に関する注意書きのある居室は、ベットの頭部に筆筒を設置するなど、心身の状況に応じた配置をしている。ポータブルトイレがベット傍に置かれた居室や室内で放尿する入居者もあるが、防臭や空調を管理し、居心地良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには「便所」と大きく書き、居室には顔写真つきのプレートを下げる等、入居者が迷ったり不安になることのないような工夫をしている。		